



■日 時:2020年12月6日(日) 14:00~16:00

■開催方法:Zoomによるオンライン配信

■趣旨:琵琶湖での最新の活動の講演を参考に、ワークショップで、印旛沼について若者の視点・思いを知り、新しい視点で印旛沼を見る。新たな気づきから行動へ広げる。

■主催:NPO 法人環境パートナーシップちば

■協力:NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

■募集定員:40名(一般参加者:20名 IVUSA:20名)

■参加者 参加者:20名 IVUSA:17名

■プログラム

本日の趣旨と学生団体 IVUSA の紹介

第1部 講演 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 佐藤祐一さん

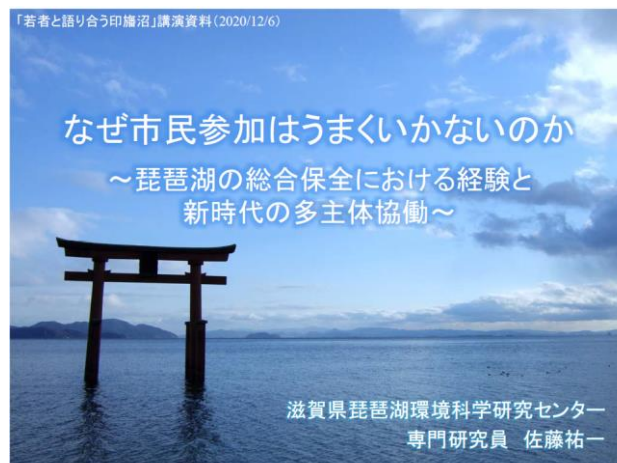
「なぜ市民参加はうまくいかないのか～琵琶湖の総合保全における経験と新時代の多主体協働～」

第2部 グループトーク「IVUSAと印旛沼について語り合おう」

第3部 各グループの報告と参加者からひとこと

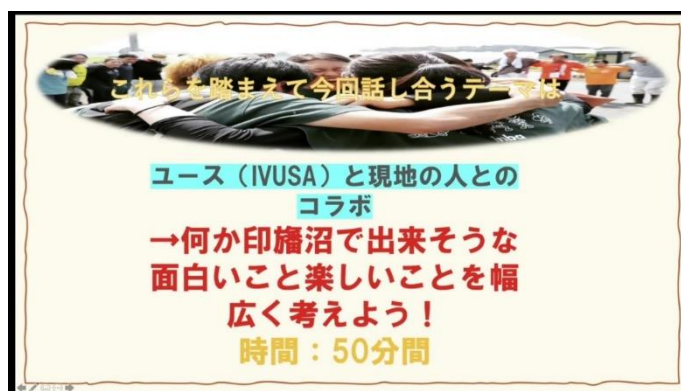
■内容

第1部の講演会では、佐藤さんが琵琶湖で展開しているマザーレイクフォーラムの紹介を中心に、市民参加のありかた、市民、特に若い世代の主体的な参加を進めていることなどを話してくださいました。

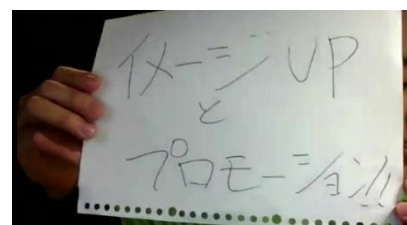
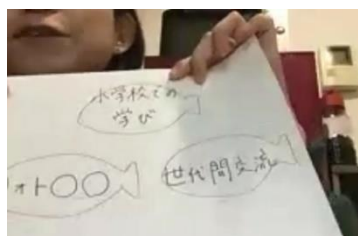


[講演資料はこちら](#)

第2部は、IVUSA と一般参加者が6つのグループに分かれてのトークセッションです。テーマは、「印旛沼を良くするために、関心を持ってもらうために、やってみたいこと。」ほとんどが IVUSA メンバーと初対面でしたが、IVUSA の巧みなファシリテートにより、活発な意見交換ができ、あっという間に終了時間となってしまいました。



第3部では、それぞれのグループのまとめの発表がありました。



- ・IVUSA は、地元の人たちと活動を通じて交流したい。
- ・印旛沼について、もっと「いいところ」のイメージを持たせたい。たった1回の環境フェアだけでは印旛沼の魅力を伝えきれないから、もっといろいろな企画があっても良い。湖畔でのイベント、地元農産物の紹介、etc.
- ・イメージアップが必要。そのためにはプロモーション！ ナガエやオニビシの活用、スゴインバーなど。(湖畔に) もっと桜を植える、フェアにIVUSA がもっと関わる。
- ・「継続化」IVUSA として、細々とでも、長く関わりたい。学生から地元を刺激する。
- ・「話を聞く」ありのまま、親水性、自然再生、谷津、和菓子、…⇒ やりたいことを見つけよう！
- ・地域の人たちに関心を持ってもらう。小学校でも学びにもっと印旛沼を取り入れてもらう(体験も)。世代間交流もだいじ。フォトコンテスト、インスタグラムの活用なども。

短い時間でしたが、IVUSA の名ファシリテートのおかげで、それぞれのグループが盛り上がり、上記のような意見が出されました。

あっという間に予定の時刻となってしまい、今回をスタートとして、ぜひ次に拓けて行こう！と、会を閉じました。

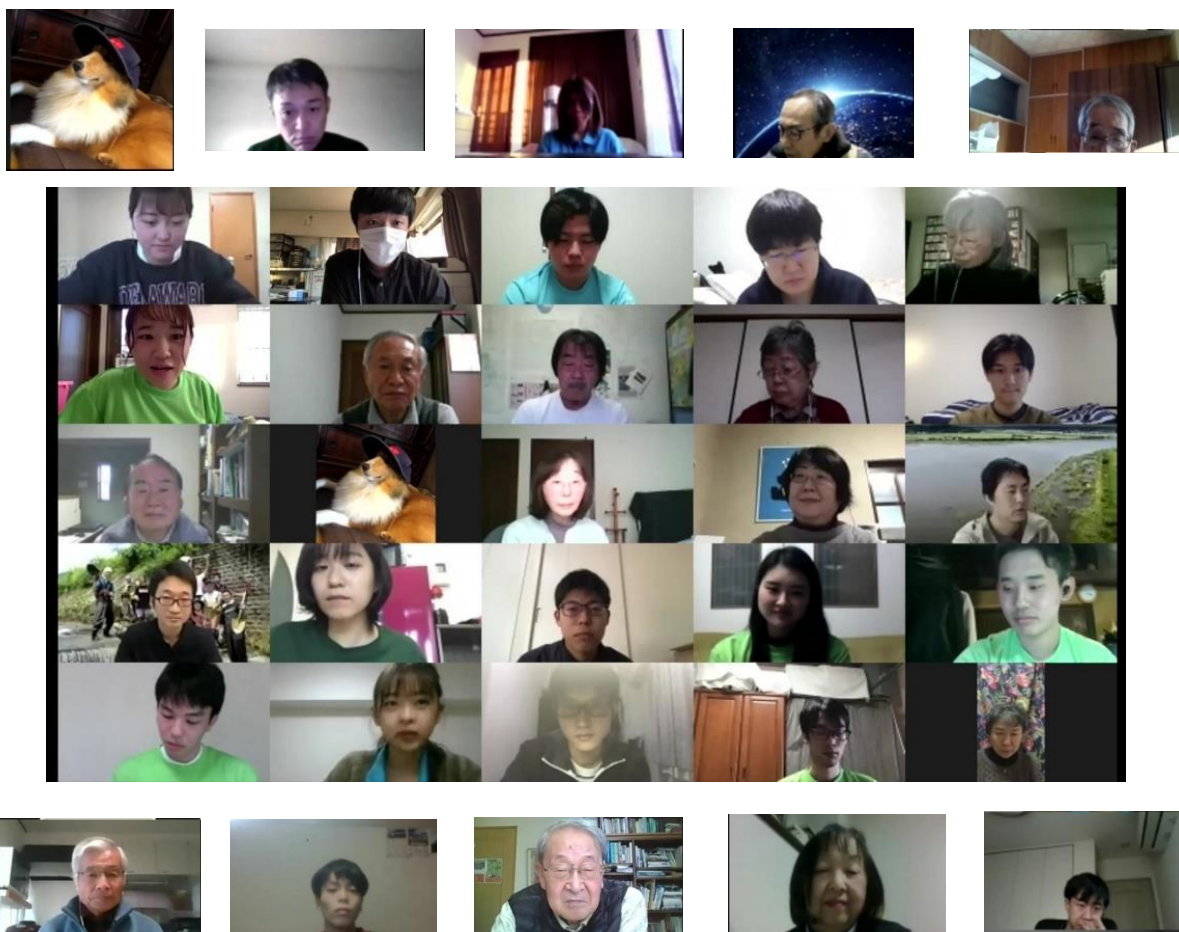
\* ————— \* ————— \* ————— \*

当初の企画が、コロナ感染予防のためにオンライン開催に変更になり、5回の準備会議もすべてオンラインで行いました。そのおかげで、講演をお願いした滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの佐藤祐一さんも準備会議から参加してくださり、会の進行の仕方などで貴重なご助言をいただくことができました。お忙しいにもかかわらず、親身になって印旛沼のこと、このイベントのことを考えてくださった佐藤さん、本当にありがとうございました。

主催者の環パちばとしては、年配者が多いこともあって、オンライン開催に不慣れでとても不安でしたが、IVUSA のみなさんの全面的なご協力により、無事に会を成功させることができました。コロナ禍のため、大学の授業も IVUSA の活動でも、大変なご苦勞をなさっている中で、このイベント開催のために中心になってご尽力下さった IVUSA の荻野俊資さんや、サポートして下さった IVUSA 事務局の三浦慎爾さんに心から感謝申し上げます。

参加者の方からも、IVUSA というすばらしい若者たちのことを知ることができてよかった、非常に有意義な時間を持てた、ぜひ「次回」を開いてほしい、などの嬉しい感想をいただくことができました。

イベントに参加して下さったみなさま、どうもありがとうございました！！



録画に映像が残っていなかったみなさま、ごめんなさい！